

史跡 斎宮跡

平成17年度現状変更緊急発掘調査報告

平成19(2007)年3月

明 和 町

序

史跡斎宮跡は平成21年度には指定30周年を迎えます。指定以来10年ごとに三重県による大規模史跡整備がなされ、町も来訪者対策として、施設等の周辺整備を行なってきました。指定30周年に向けての整備は、『史跡斎宮跡整備基本構想』に「遺構の学術的復元整備ゾーン」として位置付けられた史跡東部について、県が「史跡整備の在り方検討会」を設置し、今年1年間をかけ方向性を出す作業をしていただいております。整備候補地は、内院・中院・外院の3つが上げられておりましたが、発掘調査の成果や公有化の進捗率、維持管理、活用といった多方面から検討作業が進められております。史跡東部での実物大建物の復元は、史跡保存のために協力をいただいた地元地権者の方々も願っています。また、町はこれらの計画が具体化していくと同時に周辺整備を行い、多くの人たちが憩の場所として活用してもらえるように努力する必要があると考えています。いずれにしましても、地元地権者の協力なしでは実現できないものであります。

さて、この報告書は、平成16年度～17年度に提出された現状変更等許可申請の中で平成17年度に事前発掘調査が実施された14件の結果についてまとめたものです。

現状変更に伴う調査は、第147-8次調査のように比較的まとまったものや、浄化槽のような非常に小さなものなど規模は様々です。また、調査場所は広い史跡内を点在していますが、これらの成果の積み重ねが斎宮跡を解き明かすものと思っています。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者のみなさま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた斎宮歴史博物館調査研究課の方々に対してここに厚くお礼申し上げます。

平成19（2007）年3月

三重県多気郡明和町

町長 中井幸充

例　　言

- 1 本書は、平成17（2005）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地区）の現状変更緊急発掘調査結果をまとめたものである。
- 2 本書に掲載した調査のうち第147-3～6・9・11次調査の6件は公共事業等として事業者（明和町）が費用負担したが、それ以外については国庫および県費の補助金を受けて実施したものである。
- 3 調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館および明和町斎宮跡課が現地調査を担当した。
- 4 調査区名の表示方法（例：6 A L 8）については、『史跡斎宮跡平成13年度発掘調査概報』（斎宮歴史博物館 2003）による。
- 5 遺構の平面図は、過年度の調査成果との整合を図るため、測地成果2000施行以前の旧国土座標第VI系に相当する座標系を用いて表現しているが、国土地理院がWeb上で公開する変換ソフトによる世界測地系へ変換したデータも試みに掲載した。
- 6 遺構の時期区分については、『斎宮跡発掘調査報告 I』（斎宮歴史博物館 2001）を基準とした。
- 7 遺構冒頭の略記号は、遺構の形態から以下のように表記している。
S A ; 柱列・櫛　　S B ; 標立柱建物　　S D ; 溝　　S E ; 井戸　　S F ; 道路
S K ; 土坑　　S H ; 穫穴住居　　S Z ; 落込み等　　S X ; 墓・不明遺構
- 8 遺物の実測図は、実物を4分の1に縮小して表示の基本としている。
- 9 調査資料類は、斎宮歴史博物館で一括保管している。
- 10 本書の執筆は、当該年度の担当者である水橋公恵（斎宮歴史博物館）、小濱学・竹内英昭（三重県埋蔵文化財センター）、中野敦夫（明和町斎宮跡課）が行い、編集は大川勝宏（斎宮歴史博物館）と中野が行った。

目 次

I 前 言	1
II 調査報告	
1 第147-1次調査	2
2 第147-2次調査	2
3 第147-3・4・5次調査	2
4 第147-6・9次調査	3
5 第147-7次調査	3
6 第147-8次調査	3
7 第147-10次調査	3
8 第147-11次調査	11
9 第147-12次調査	11
10 第147-13次調査	11
11 第147-14次調査	11
12 第147次調査における國土座標の変換	12
付編 史跡現状変更等許可申請	14

表・挿図目次

[表] 1 史跡現状変更等許可申請の推移	1
2 第147次調査 遺構一覧表	12
3 第147次調査 挿立柱建物一覧表	12
4 第147次調査 出土遺物観察表	13
5 平成17年度現状変更等許可申請一覧表	15

[図] 1 史跡地内発掘調査位置図	
2 調査区位置図① (1:4000)	4
3 調査区位置図② (1:4000)	5
4 調査区位置図③ (1:4000)	6
5 遺構平面図① (1:200)	7
6 遺構平面図② (1:200)	8
7 土層断面図① (1:100)	9
8 土層断面図② (1:100)	10
9 遺物実測図 (1:4)	13

写 真 図 版

1 第147-2・4次調査	上：2次調査区全景（北から）	下：4次調査区（東から）
2 第147-4・7次調査	上：4次調査区（西から）	下：7次調査 調査前風景（南から）
3 第147-7次調査	上：調査区全景（南から）	下：SK9580（南西から）
4 第147-7・8次調査	上：7次調査 SK9577（南から）	下：8次調査 調査前風景（北から）
5 第147-8次調査	上：調査区全景（西から）	下：SB9584・9585（北から）
6 第147-8・14次調査	上：8次調査 SD9582（西から）	下：14次調査 調査区全景（南西から）



第1図 史跡地内免振調査位置図 (1:10,000)

II 調査報告

1 第147-1次調査（6AO6）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字出在家3230-3、-4

原因 建物改築等

調査期間 平成17年6月9日

調査面積 3.0m²

概況) 調査地は、斎王の森から北250mに位置する住宅地内（第四種保存地区）である。建物の老朽化による既存建物の一部解体と増改築、及び浄化槽（7人槽）埋設の現状変更のうち、浄化槽埋設場所（長さ2.5m×幅1.2m）について調査を行った。基本層序については、上から、表土・客土（茶褐色土・褐色土）、地山（浅黄橙色粘質土）であった。現況地盤の標高は10.462m、地山面は標高9.497mである。遺構・遺物とも確認されなかった。
(水橋公恵)

2 第147-2次調査（6AR13）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字牛葉572-2

原因 建物改築等

調査期間 平成17年6月17日

調査面積 3.0m²

概況) 調査地は、竹神社から南100m付近に位置する宅地である。現地表面の標高は約11.3mである。既設の物置を解体撤去後、住宅の建築及び合併浄化槽の埋設を行うものである。物置部分と住宅建築部分は、立会いの結果地下遺構に影響はないことが判明した。浄化槽部分については、柱穴4基を確認することができた。調査対象部分が狭小であるため、建物などを構成するものであるのかはわからなかった。遺構検出面は橙色土層で、標高約10.8m前後で確認することができた。
(小瀬 学)

3 第147-3・4・5次調査（6AL～R13, L5・6）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字木葉山、鈴池、中西地内

原因 上水道管改修工事

調査期間 平成17年6月21日～10月10日

調査面積 1,858m²

概況) 調査地は、史跡内牛葉・中町地区の道路敷地内に所在する。便宜上、1工区を第147-3次調査、2工区を第147-4次調査、追加工事部分については第147-5次調査とした。全体でいえることだが、概ね現地表面から約50～90cm下で遺構検出面を確認することができた。まず、第147-3次調査について述べたい。第6図147-3Bにあるような長径50cm程度の柱穴群を確認した。建物に関わるものと考えられるが調査区が狭小であるため判然としない。第6図147-3Dでは幅70cm程度のSD9572を確認した。これまでの調査成果から、木葉山西区画西辺の方格地割側溝に関連するものと考えられる。これら以外については、古代～中世にかけてのSD9571、柱穴群を確認した。一部では後世の搅乱を受け遺構・遺物を確認できない部分もみられた。次に、第147-4次調査について述べたい。第6図147-4Bにあるような幅80cm程度のSD9574を確認した。これまでの調査成果から、鈴池西区画西辺の方格地割の側溝に関連するものと考えられる。この地割に平行する木葉山東区画東辺の地割は後世の搅乱により確認できなかった。これら以外については、古代～中世にかけての溝、柱穴群を確認したが、先述のように、一部では後世の搅乱を受け遺構・遺物を確認できない部分もみられた。第147-5次調査では、第6図147-5にあるようなSD9575を確認した。一部では後世の搅乱を受け遺構・遺物を確認できない部分もみられた。
(小瀬 学)

4 第147-6・9次調査 (6AO5・6、P5・6、Q6・7、6AN6、O6、P6、O7、Q7、R7)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮地内

原因 下水道管布設

調査期間 平成17年8月5日～12月15日

調査面積 544.5m²

概況) 調査地は、史跡中央部北端の住宅密集地である。町道敷地内に幅1.0mの掘削をおこない下水道管を布設するものである。便宜上、19・20工区を147-6次調査、21工区を147-9次調査とした。遺構としては柱穴、溝、鎌倉大溝、土坑を検出している。なお、詳細については正式報告に譲りたい。ここでは、調査位置を示すにとどめたいと思う。

(中野敦夫)

5 第147-7次調査 (6AP・Q7)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字楽殿2890-5

原因 建物建築

調査期間 平成17年11月7日～22日

調査面積 60m²

概況) 調査地は、斎王の森から北東約200mに位置し、現況は畠地で、その部分に住宅建築を行うものである。現地表面の標高は約11.6mである。遺構検出面は橙色粘質土層の上面で確認することができた。標高10.7m前後で確認した。調査の成果としては、古代～中世に属すると考えられる土坑5基、溝1条・時期不詳の柱穴を多数確認した。S K9576は井戸である可能性もある。出土遺物については、斎宮編年II～III期に属するものが中心であった。

(小濱 学)

6 第147-8次調査 (6AL5・6)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字出在家3237-6、3233-10

原因 建物建築

調査期間 平成17年12月7日～平成18年1月16日

調査面積 260.7m²

概況) 調査地は、斎宮歴史博物館から東300m付近に位置する。現況は畠地で、その部分に住宅、農業用倉庫の建築を行うものである。現地表面の標高は約10.8mである。遺構は明黄褐色土層の上面で確認することができ、標高10.3m前後で確認した。調査の成果を以下に述べる。S B9584は桁行1間以上、梁行1間以上、S B9585は桁行1間以上、梁行1間以上を調査区内で確認した。調査区外に延びていくようである。平安時代、斎宮編年II期のものと考えられる。これら以外にも、中世に属すると考えられる溝2条・時期不詳の柱穴を多数確認することができた。この調査地の南方の第142-4次調査では庇を持つと思われるS B8828が確認されている。方格地割の北方に広がる掘立柱建物群の展開と史跡範囲の北限を考える上で貴重な成果をえることができた。

(小濱 学)

7 第147-10次調査 (6AE8、D8・9)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字枝戸地内

原因 側溝新設

調査期間 平成18年2月15日

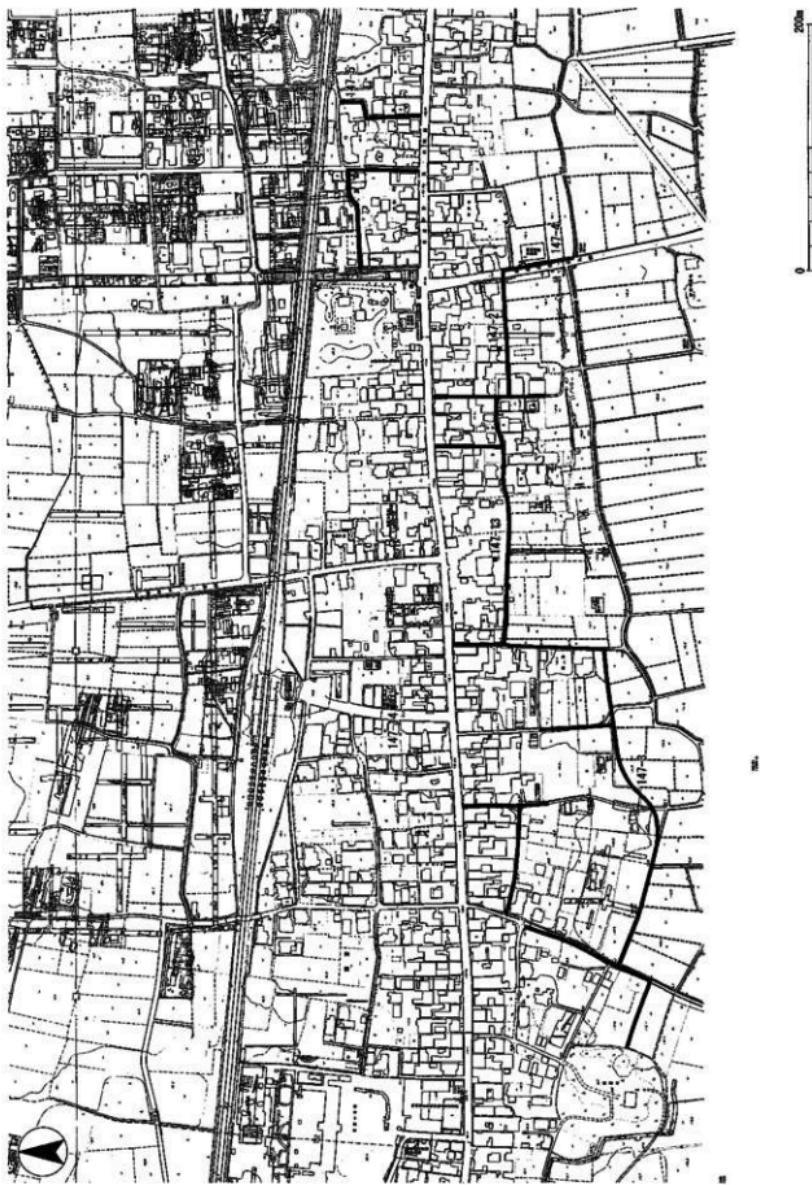
調査面積 0.6m²

概況) 史跡西部に位置する明和町所有の道路敷沿いにおける側溝新設に伴う緊急調査である。基本層序については、現況地盤の上から、耕作土、砂利であった。最も深い場所で28センチ掘削したが、遺構面に達せず、遺物も出土しなかった。

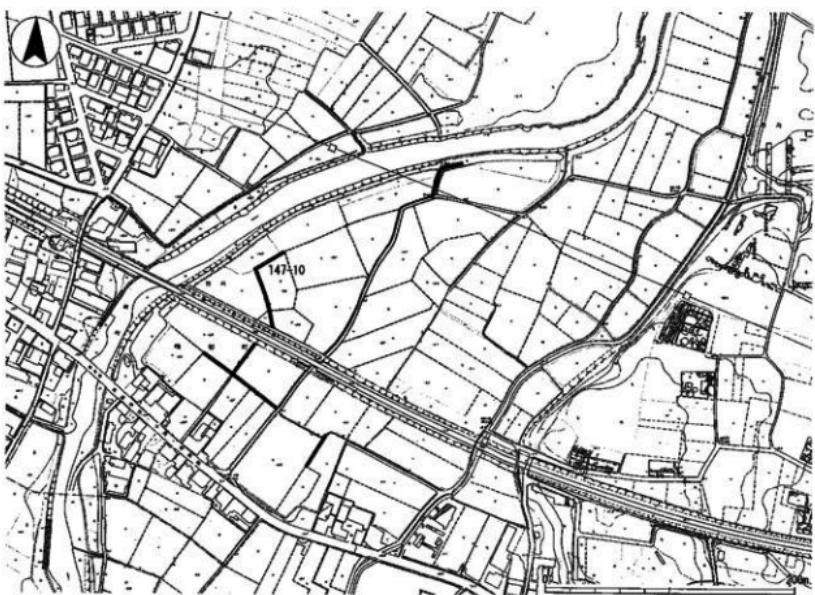
(水橋公恵)



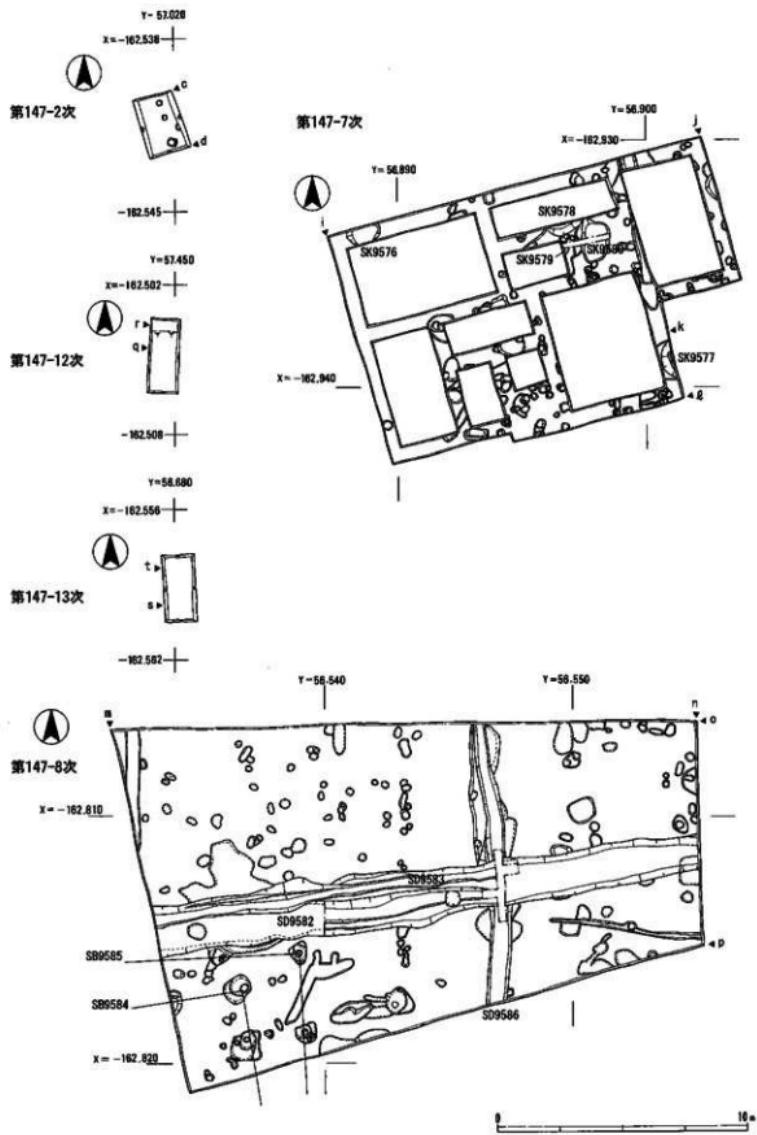
第2図 調査区位置図① (1 : 4,000)



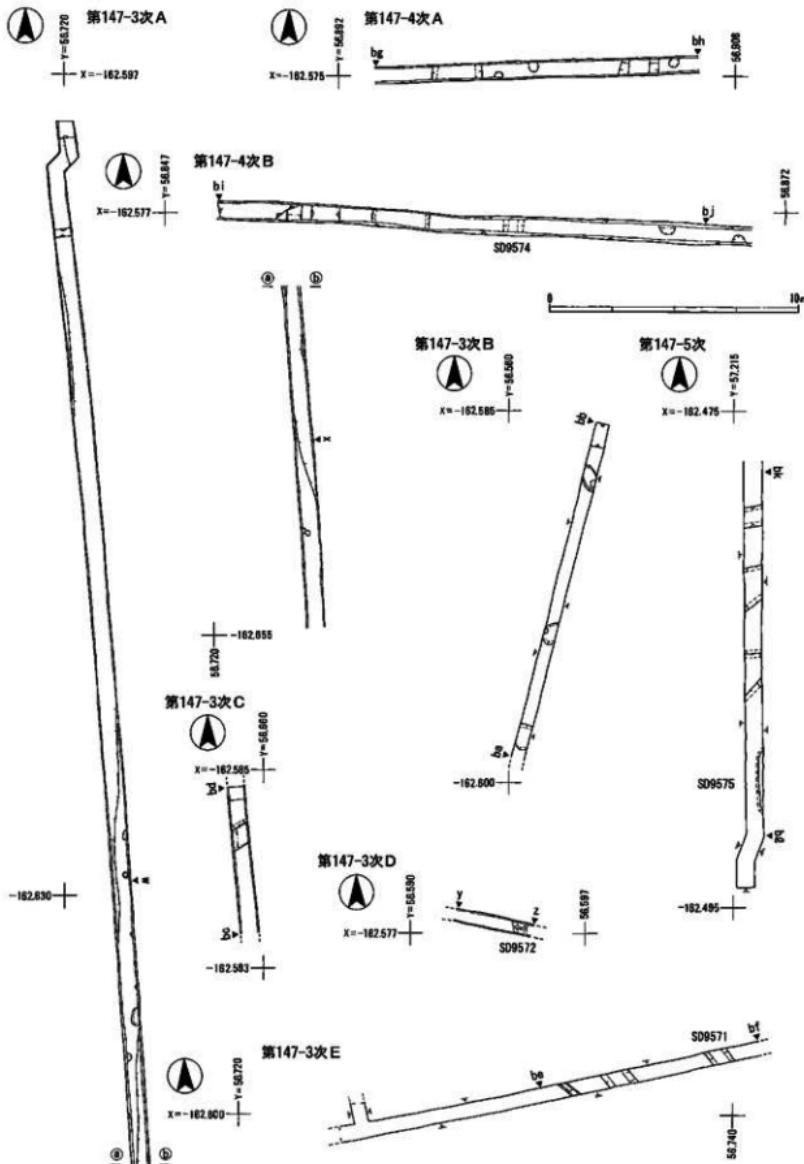
第3図 調査区位置図② (1:4,000)



第4図 調査区位置図③ (1:4,000)

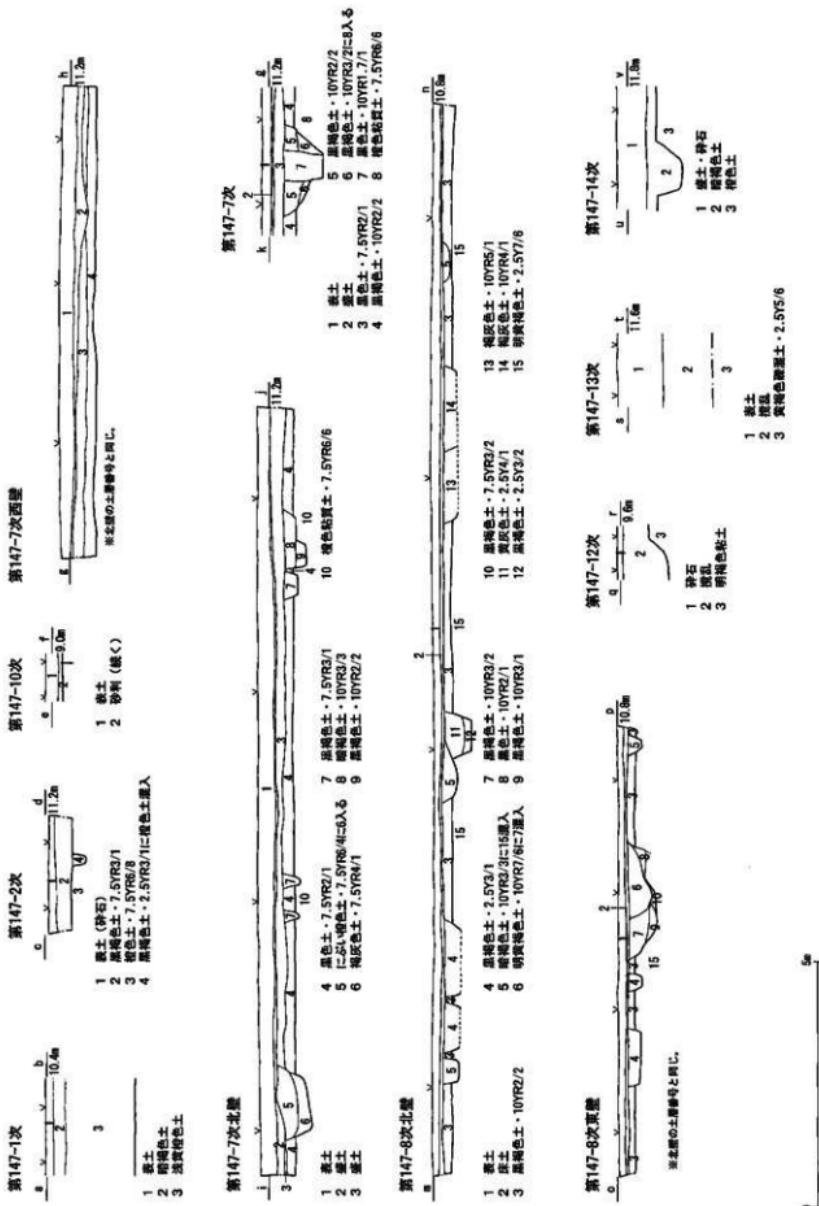


第5図 造構平面図① (1:200)



第6図 造構平面図② (1:200)

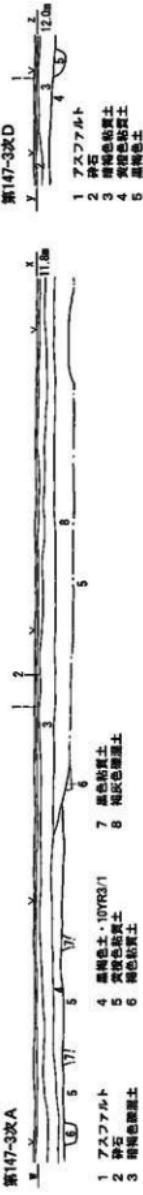
第7図 土層断面図① (1:100)



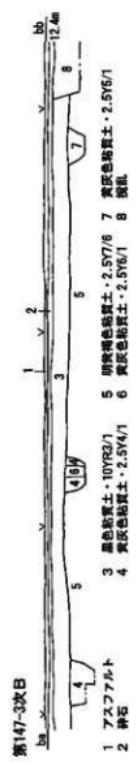
第8図

土層断面図② (1:100)

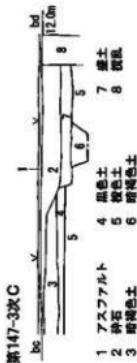
第147-3次A



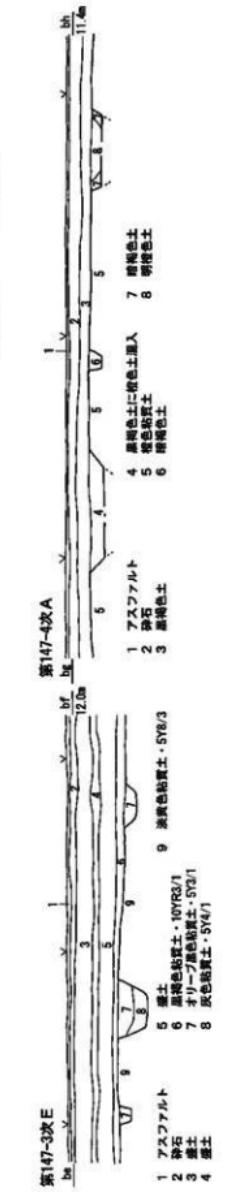
第147-3次B



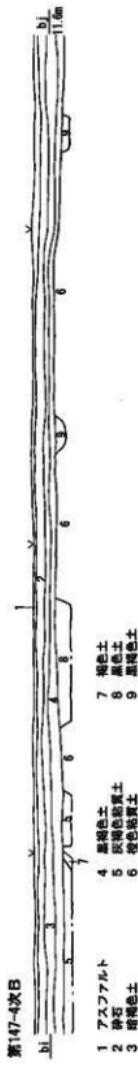
第147-3次C



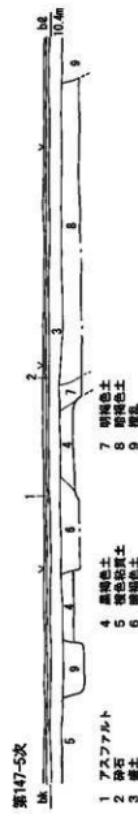
第147-3次E



第147-4次B



第147-5次



8 第147-11次調査（6 A T・U7）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字東前沖2505-4

原因 整備工事

調査期間 平成17年9月30日～平成18年2月16日

調査面積 261.7m²

概況) 調査地は史跡の北東部に位置し、旧陸軍施設であった国有地約4,000m²を史跡公園に整備するものである。造成に先立ち、敷地外周に側溝を設置する工事の立会い調査を実施した。その結果、すでに掘削等で擾乱を受けており、深い遺構である鎌倉大溝 S D9129 (S D0005) のみ確認することができた。

(中野敦夫)

9 第147-12次調査（6 A V13）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字鈴池2342-5、-6

原因 建物改築

調査期間 平成17年10月26日

調査面積 3.3m²

概況) 調査地は、竹神社から東350mに位置し、現況は宅地である。現地表面の標高は約9.7mである。住宅の建築及び合併浄化槽の埋設を行うものである。住宅建築部分は、立会いの結果地下遺構に影響はないことが判明した。浄化槽部分については、第64-8次調査と重複する部分もあり、搅乱を大きく受けているらしく遺構・遺物ともに確認することができなかった。遺構検出面は明褐色粘土層で、標高約9.1m前後で確認することができた。

(竹内英昭)

10 第147-13次調査（6 A P13）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字牛葉323

原因 建物建築等

調査期間 平成17年12月13日

調査面積 3.6m²

概況) 調査地は、斎宮駅から南東約200m付近に位置する。現況は宅地で、現況地盤の標高は11.7m前後である。その部分に住宅建築と浄化槽の設置を行うものである。住宅建築部分は立会いの結果、地下遺構に影響がないことが判明した。浄化槽部分については、搅乱を大きく受けているらしく遺構・遺物ともに確認することができなかった。遺構検出面自体も大きく搅乱を受けているためか1.9m掘削しても確認することができなかった。

(小瀬学)

11 第147-14次調査（6 A O12）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字牛葉3026-15

原因 建物建築

調査期間 平成18年3月7日

調査面積 3.9m²

概況) 斎宮駅から南100m付近の駐車場（第三種保存地区）において、個人住宅の新築、合併浄化槽への取り替え及び付帯配管の埋設を行うものである。合併浄化槽部分で調査を行った。基本層序については、現況地盤の上から、盛土・碎石（住宅建設時）、暗褐色土（旧耕作土か）、橙色土（地山）であった。現況地盤から0.8m、橙色土上面で遺構検出を行ったが、搅乱溝を確認したのみで遺物も出土しなかった。

(水橋公恵)

付篇 史跡現状変更等許可申請

平成17年度中の史跡現状変更等許可申請は、31件提出された。前年度申請分も含め17年度中に発掘調査を行ったのは、16件であり、内訳は、史跡の実態解明のための計画発掘調査が2件、史跡整備事業に伴うものが1件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが13件である。なお、本書に掲載している第147-1~4・12・13次調査の6件は前年度申請分である。

31件の申請のうち23件は、宅地敷地内における個人住宅の建設など小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないものである。なお、基礎掘削工事にあたっては斎宮歴史博物館並びに明和町斎宮跡課職員の立会いのもとで実施している。

17年度の申請の内容は、一覧表（第4表）のとおりであり、これらの申請を（A）個人等から申請されるもの、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（C）史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、（D）発掘調査のための申請に分けることができる。

（A）個人等による申請

個人等による申請は、住宅等の新築及び増築に伴うもので12件あった。3件については発掘調査が必要とされ、個人住宅等の建設に伴う浄化槽部分や基礎部分など（第147-7・8・14次調査）である。他の9件（うち1件取下げ含む）については、個人住宅の建設や除去で土地利用区分の第四種保存地区にあたり、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は14件の提出があった。その内容は、道路舗装工事が1件、上水及び下水道管の布設関係が4件、電柱及び支線等の新設及び撤去が3件、児童安全対策のための門扉、フェンスなど学校施設関係が3件ある。その内調査対象となったものは、側溝設置（第147-10次調査）、上水道管の改修（第147-5次調査）、下水道管布設（第147-6・9次調査）の4件である。そのほかは工事立会いで着工している。

（C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

この申請は、3件あり環境整備も含めた多目的広場として整備している史跡公園北野広場の関係であり、内容は、がれきの撤去、側溝の設置等である。

（D）発掘調査のための申請

この申請は2件（第146次・第148次調査）あり、三重県教育委員会が主体となり斎宮歴史博物館が実施している計画発掘調査で、860m²が調査された。これらの内容については斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行されている。

（中野敦夫）

報告書抄録

ふりがな	しせきさいくうあと へいせいじゅうななねんどげんじょうへんこうきんきゅうはつくつちょうさほうこく							
書名	史跡斎宮跡 平成17年度現状変更緊急発掘調査報告書							
副書名								
卷次								
シリーズ名	三重県多気郡明和町斎宮跡埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	23							
編著者名	小濱学・竹内英昭・水橋公恵・大川勝宏・中野敦夫							
編集機関	斎宮歴史博物館(調査研究課)・明和町(斎宮跡課)							
所在地	〒515-0332 三重県多気郡明和町大字馬之上945番地 TEL 0596(52)7126							
発行年月日	西暦 2007年 3月 30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ一ド 市町村 遺跡番号	北緯 。' .	東経 。' .	調査期間	調査積 (m ³)	調査原因	
斎宮跡	多気郡明和町 斎宮・竹川	24442	210	34°31'55" ~ 34°32'30"	136°36'16" ~ 136°37'37"	20050401 ~ 20060331	全14件 合計 3,002m ³	史跡現状変更に 伴う緊急発掘調 査 (史跡斎宮跡第 147次調査)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
斎宮跡第147次	官衙・集落	奈良 平安 鎌倉 室町以降	掘立柱建物 土坑 溝 落ち込み		土師器 須恵器 縄文陶器 山茶椀 陶器			
要約	第147-3・4・5次調査では、木葉山西区西辺、鈴池西区西辺の方格地割に開闢するとみられる溝を確認することができ、古代～中世にかけての溝、柱穴群を確認したが、一部では後世の擾乱を受け遺構・遺物を確認できない部分もみられた。第147-6・9次調査では、柱穴、溝、鎌倉大溝、土坑といった遺構を検出した。第147-7次調査では、古代～中世に属すると考えられる土坑5基、溝1条・時期不詳の柱穴を多数確認した。第147-8次調査では、桁行1間以上、梁行1間以上の掘立柱建物を2棟確認し、方格地割の北方に広がる掘立柱建物群の展開と史跡範囲の北限を考える上で貴重な成果をえることができた。第147-11次調査では、すでに掘削等で擾乱を受けており、深い遺構である鎌倉大溝のみ確認することができた。							

写 真 図 版

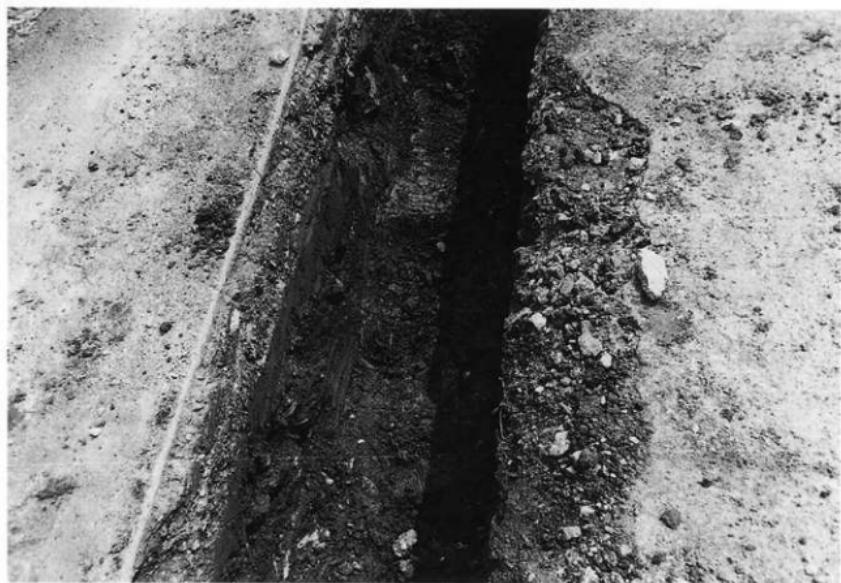


第147-2次調査 調査区全景（北から）



第147-4次調査 調査区（東から）

写真図版2



第147-4次調査 調査区（西から）



第147-7次調査 調査前風景（南から）



第147-7次調査 調査区全景（南から）



第147-7次調査 SK 9580（南西から）

写真図版4



第147-7次調査 SK9577（南から）



第147-8次調査 調査前風景（北から）



第147-8次調査 調査区全景（西から）



第147-8次調査 SB9584・9585（北から）

写真図版6



第147-8次調査 SD9582（西から）



第147-14次調査 調査区全景（南西から）

史跡 斎宮跡
平成17年度
現状変更緊急発掘調査報告

平成19(2007)年3月30日

編 集 斎宮歴史博物館
明 和 町
発 行 明 和 町
印 刷 光出版印刷株式会社
